

平成17年度病害虫発生予報第9号

平成17年10月6日
鳥取県病害虫防除所

予報の概要 [参考]

区 分	農作物名	病 害 虫 名	予 想 発 生 量
野 菜	キャベツ ブロッコリー	軟腐病	平年並
		黒腐病	平年並
	べと病	平年並	
	コナガ	やや少ない	
	ヨトウムシ	やや多い	
ネ ギ		黒斑病	平年並
		さび病	平年並
		ネギアザミウマ	平年並
		ネギハモグリバエ	平年並~やや多い
		シロイチモジヨトウ	平年並
トマト・ミニトマト キャベツ・イチゴ		ハスモンヨトウ	多 い
		オオタバコガ	やや多い
トマト・ミニトマト キャベツ		葉腐病(ラージパッチ)	平年並
		さび病	平年並
花 き	シ バ	スジキリヨトウ	やや多い
		シバツトガ	平年並

気象予報 (抜粋)

1か月予報(10月1日~30日:9月30日、広島地方气象台発表)
向こう1か月の気温は高く、降水量と日照時間は平年並でしょう。

<可能性の大きな気温経過>

期 間	平均気温
10月 1日 ~ 7日	高 い
10月 8日 ~ 14日	高 い
10月15日 ~ 28日	平年並か高い

野 菜

[キャベツ、ブロッコリー]

1 軟腐病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月中下旬の降雨が並～やや少なかったため、9月下旬現在の発生量はやや少ない。
- イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。
- ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 高温時は害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。
- イ 圃場の排水に努める。
- ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候の回復を待つできるだけ早く薬剤散布する。
- エ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、有機銅水和剤（オキシンドーフロアブル1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液など）、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。
- オ ブロッコリーの防除薬剤は、ナレート水和剤1,000倍液、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。

2 黒腐病

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月中下旬の降雨が並～やや少なかったため、9月下旬現在の発生量はやや少ない。
- イ 本病は、降雨が多いと発生が多くなる。
- ウ 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため害虫防除を徹底する。
- イ 圃場の排水に努める。
- ウ 発生前の予防防除を行う。特に大雨や台風直後は、天候の回復を待つできるだけ早く薬剤散布する。
- エ 肥料不足になると多発しやすいため、肥料切れしないよう注意する。
- オ キャベツの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、有機銅水和剤（オキシンドーフロアブル1,000倍液、ヨネポン水和剤500倍液など）、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。
- カ ブロッコリーの防除薬剤は、カスガマイシン・銅水和剤（カスミンボルドー、カッパーシン水和剤）1,000倍液、有機銅水和剤（キノンドー水和剤40の800倍液、ヨネポン水和剤500倍液など）、無機銅水和剤（Zボルドー500倍液など）などを散布する。

3 ベと病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月中下旬の降雨が並～やや少なかったため、9月下旬現在の発生量はやや少ない。

イ 本病は気温が比較的低温、降雨が多いと発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツの防除薬剤は、ヨネポン水和剤500倍液、ペフドー水和剤500倍液、ダコニール1000の1,000倍液、マンゼブ水和剤(ジマンダイセン水和剤、ペンコゼブ水和剤)600倍液などを予防散布する。

イ ブロッコリーの晩生品種では、花蕾にべと病が発生しやすい。

ウ ブロッコリーの薬剤防除は、作型を問わずリドミルMZ水和剤(鳥取県経過措置承認薬剤)の1,000倍液を使用法(収穫30日前/3回以内)に注意しながら10月上旬～中旬から10日間隔で2～3回散布する。

4 コナガ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや少ない

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における幼虫の発生数は少ない。

イ 県予察ほ場(東伯郡北栄町)でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は平年並～やや少ない。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、やや少ない発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツでは結球開始期に、アタブロン乳剤2,000倍液又はカスケード乳剤の4,000倍液を散布する。その後、さらに発生がみられる場合はトルネードフロアブル2,000倍液、コテツフロアブル2,000倍液などを散布する。

イ ブロッコリーでは花蕾抽出前に、アタブロン乳剤2,000倍液、アフーム乳剤2,000倍液を散布する。その後、さらに発生がみられる場合はトルネードフロアブル2,000倍液、コテツフロアブル2,000倍液などを散布する。

5 ヨトウムシ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における発生量はやや多い。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、引き続きやや多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア キャベツの防除薬剤は、若齢幼虫に対しては、オルトラン水和剤、PAP乳剤(エルサン、パプチオン)1,000倍液などを散布する。老齢幼虫に対しては、トレボン乳剤、アグロスリン水和剤、ラービン水和剤75、ランネート45水和剤の各1,000倍液を散布する。

イ ブロッコリーの防除薬剤は、若齢幼虫に対しては、オルトラン水和剤、PAP乳剤(エルサン、パプチオン)の1,000倍液などを散布する。老齢幼虫に対しては、マトリックフロアブル2,000倍液、アフーム乳剤1,000倍、ランネート45水和剤1,000倍などを散布する。

[ネギ]

1 黒斑病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月中下旬の降雨が並～やや少なかったため、9月下旬現在の発生量はやや少ない。

イ 本病は平均気温25前後が発病適温であり、降雨が多い場合に多発する。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 根傷み、肥料不足になると発病しやすいので、肥培管理に注意する。

イ 防除薬剤は、ヨネボン水和剤500倍液、ダコニール1000の1,000倍液などを発病初期から散布する。発病が増加する場合は、ロブラール水和剤1,000倍液、ポリベリン水和剤1,500倍液などを散布する。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在の本病の発生量は平年並である。

イ 本病は、秋季に比較的低温で、降雨が多い場合に発生が多くなる。

ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

発病前の10月上旬頃(平坦部)からジマンダイセン水和剤600倍液を10～12日間隔で2～3回散布する。その後の発生には、オンリーワンフロアブル1,000倍液またはラリー乳剤4,000倍液などを散布する。

3 ネギアザミウマ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地ほ場における発生量は、やや少ない。
- イ 県予察ほ場（東伯郡北栄町）における発生量は、平年並である。
- ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、アグロスリン乳剤2,000倍液、アクタラ顆粒水溶剤2,000倍液、ダントツ水溶剤2,000倍液、ランネート45水和剤1,000倍液、モスピラン水溶剤2,000倍液、アドマイヤーフロアブル4,000倍液などを7~10日間隔で10月下旬頃までローテーション散布する。

4 ネギハモグリバエ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並~やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 9月下旬現在、現地ほ場における発生量は、平年並である。
- イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並~やや多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

防除薬剤は、アクタラ顆粒水溶剤2,000倍液、ダントツ水溶剤2,000倍液、アグロスリン乳剤2,000倍液などをローテーション散布する。また、春ネギではダントツ粒剤3~6Kg/10aを株元散布する。

5 シロイチモジヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	平年並

(2) 予報の根拠

- ア 県西部の現地ほ場における発生は見られなかった。
- イ 県予察ほ場（東伯郡北栄町）でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は平年並である。
- ウ 幼虫の発生は10月下旬まで続くと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫による葉先の被害がみられる場合は、コテツフロアブル2,000倍液、アファーム乳剤2,000倍液、マトリックフロアブル1,000倍液などを散布する。

[トマト、ミニトマト、キャベツ、ブロッコリー、イチゴ]

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報の内容

発生地域	県内全域
発生時期	平年並
発生量	多い

(2) 予報の根拠

- ア 現地ほ場において、キャベツ、ブロッコリー等での発生は多く、トマト、ミニトマト、イチゴでの発生も平年並～やや多くなっている。
- イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、引き続き多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 薬剤の感受性が高い若齢幼虫のうちに防除を行う必要があるため、ほ場内を観察し、発生がみられる場合には直ちに防除を行う。
- イ トマトの防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、マッチ乳剤3,000倍液、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液などを散布する。若齢幼虫、中～老齢幼虫が混在する場合にはトルネードフロアブル2,000倍液などを使用する。
- ウ ミニトマトの防除薬剤は、若齢幼虫期にアタブロン乳剤2,000倍液、ノーモルト乳剤2,000倍液、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液などを散布する。
- エ キャベツの防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、ラービン水和剤75の1,000倍液、デルフィン顆粒水和剤1,000倍液、アフファーム乳剤2,000倍液などを散布する。若齢幼虫、中～老齢幼虫が混在する場合には、コテツフロアブル2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液などを使用する。
- オ ブロッコリーの防除薬剤は、PAP乳剤(エルサン、パプチオン)1,000倍液などを散布する。
- カ イチゴの苗床における防除薬剤は、若齢幼虫には、アタブロン乳剤2,000倍液、マッチ乳剤3,000倍液、ラービフロアブル1,000倍液などを散布する。若齢幼虫、中～老齢幼虫が混在する場合には、コテツフロアブル2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液、アフファーム乳剤2,000倍液などを使用する。

[トマト、ミニトマト、キャベツ]

1 オオタバコガ

(1) 予報の内容

発生時期	平年並
発生量	やや多い

(2) 予報の根拠

- ア 現地ほ場における発生量は、平年に比べてやや多い。
- イ 県予察ほ場(東伯郡北栄町)でのフェロモントラップにおける成虫の誘殺数は平年並である。
- ウ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、やや多い発生量が見込まれる。
- エ 幼虫による被害は10月下旬頃まで続くと予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア トマト、ミニトマトの防除薬剤は、コテツフロアブル2,000倍液、アフファーム乳剤2,000倍液、マトリックフロアブル2,000倍液などを使用する。
- イ キャベツの防除薬剤は、コテツフロアブル2,000倍液、ガードジェット水和剤1,000倍液などを使用する。

[シバ]

1 葉腐病(ラージパッチ)

(1) 予報の内容

発生時期 やや遅い

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月中下旬の降雨が並～やや少なかったため、9月下旬現在、生産シバにおける発生はみられていない。初発生の時期は平年に比べやや遅い10月下旬頃と予想される。

イ 本病は降雨によって発病が増加するが、気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 本病は予防散布が効果的であり、防除薬剤はグランサー水和剤1,000倍液(1 μ g/m²)、センチネル顆粒水和剤2,500倍液(0.25 μ g/m²)、イカルガ35SCの2,000倍液(0.3 μ g/m²)などを用いる。

イ 秋期発生に対する平坦地での散布時期は、最低気温の推移から10月中旬頃と見込まれる。標高の高い地域では10月上旬頃に防除を行う。

2 さび病

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 平年並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、生産シバでの発生は平年並となっている。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量は平年並と予想されており、平年並の発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

発生初期にバシタック水和剤75の1,000倍液、バイレトン乳剤2,000倍液などを散布する。

3 スジキリヨトウ

(1) 予報の内容

発生時期 平年並

発生量 やや多い

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における幼虫の発生は平年並で、卵塊数はやや多い。

イ 気象予報によると、向こう1か月の気温は高く、降水量とは平年並と予想されており、やや多い発生量が見込まれる。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の発生がみられる場合は、リラークDF2,000倍液、ダースバン乳剤40の1,500倍液、スカウトフロアブル1,500倍液、カルホス乳剤1,000倍液などを散布する。

4 シバツトガ

(1) 予報の内容

発生時期 平 年 並

発生量 平 年 並

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬現在、現地ほ場における被害はみられていない。

イ 向こう1か月の気温は高く、降水量とは平年並と予想されており、平年並の発生量が予想される。

(3) 防除上注意すべき事項

幼虫の発生がみられる場合は、リラークDF2,000倍液、カルホス乳剤1,000倍液などを散布する。

[おしらせ]

農薬は、農林水産省の登録番号のあるものを、ラベルをよく読んで使いましょう。詳しい内容は、独立行政法人 農薬検査所の「農薬登録情報検索システム」から検索できます。(<http://www.acis.go.jp/>)

農薬の使用に当たっては、農薬使用基準を遵守しましょう。

< 鳥取県病害虫防除所ホームページ >

アドレス <http://www.jppn.ne.jp/tottori/>

病害虫の発生予察情報、現地巡回調査結果などの指導情報、病害虫の診断方法などの情報をお知らせしていますので、ご利用下さい。

鳥取県病害虫防除所

〒680-1142 鳥取市橋本 260

TEL : 0857-53-1345、FAX : 0857-53-5647

E-mail : byogaichu@pref.tottori.jp 又は kttr0301@sp.jppn.ne.jp

今回の予報発表は、12月1日(木)の予定です。